

平成 30 年度米沢古文書研究会総会議事録

日時 2018 年 4 月 21 日（土）午後 1 時 30 分から

場所 置賜総合文化センター 301 研修室

司会 中村善治幹事

出席会員：小林，山岸，中村恵，永井，坂部，川崎，平賀，菅野，武田，岡崎，山王堂，高橋育，高橋敬，本川，川口，長，中村善，松崎，（他に資料だけ受取り帰る会員もいた）

1 高橋会長挨拶

2 会長が座長として議事進行

(1) 平成 29 年度事業報告（岡崎副会長），平成 29 年度決算報告（平賀理事）を続けて報告，小林監事が監査報告。

(2) 平成 30 年度事業案（岡崎副会長），平成 30 年度予算案（平賀理事）を提案

① 「お試し入会」という言葉は使わず，途中入会と見学にする。途中入会は月割りで会費支払い，見学の場合は無料だが教材は準備しない

② 会費を 3600 円とすることに決定。おやつは，袋詰め菓子などにして経費節減する。

③ 入門講座について，7 月，8 月の第 3，4 土曜日に 3 回実施する。教材は上杉文書の戊辰関連のものとするが，講師・教材とも未定。

④ 研修旅行を 10 月に実施することとし，その前に 9 月に研修の事前勉強を兼ねてミニ講演会を実施する。ただし，旅行の目的地など未定。

⑤ その他の提案（市長要望，博物館の資料閲覧など）があった。

⑥ 以上，次の⑦を除き，予算案ともに，原案どおりに決定。

⑦ II 部例会の場所について，301 会議室という提案であったが，部屋が広くて声が通りにくいという意見があり，狭くて場合により講師は演台を使用することになるが，II 部例会も第 3 会議室で行うこととした。

3 その後，午後 2 時 15 分から，武田節子講師が「福島藩板倉家の米沢藩への避難依頼の書状」（上杉文書 1266）について講義を行った。この文書は，戊辰戦争の慶応 4 年 7 月末に新政府軍の攻撃で福島城が危うくなり，前藩主板倉勝頼らが米沢に避難する際のものだが，白河城で敗れ次いで二本松で破れという背景の文書である。武田節子さんが二本松出身で，復古記の二本松敗城の慶応 4 年 7 月 29 日の戦死者名に，武田さんの先祖の伴覚左衛門さんの名前があったことが紹介され，また，武田さんの夫の武田徹さんが郡山市の安積高校出身で同校出身の朝河貫一の父朝河正澄（宗形幸八郎昌武）も二本松藩士で戊辰戦争で戦っており，正澄の記録をまとめた冊子を発行しており，これを全員に配布してもらった。たまたま，福島藩の文書なので，福島の武田さんに講師をお願いしたが，このように深い関係があるとは予想もせず，興味深い講義だった。

4 午後 4 時解散

以上